

ロシア・中国関係貴重文献資料展示

平成13年11月7日(水)～14日(水) 於 附属図書館1階ギャラリー

東京外国語大学附属図書館主催の第2回講演会を記念し、貴重かつ当館ならではの資料を特別展示としてご紹介させていただきます。

100以上の言語の資料を所有する本学蔵書の中で、東京外国語学校時代より語科を有し、蔵書数も多いロシア語と中国語から選んで展示しております。



八杉文庫/IV/64

Уложение.

С.-Петербург: Имп. АН, 1737

「皇帝アレクセイ・ミハイロヴィチ法典」第2版

本学所蔵のロシア語文献では最古のものである。



特234

「露和字彙」上・下巻 文部省編
文部省編輯局 1887(明治20)年

1877(明治10)年、文部省より編纂の委嘱を受けた東京外国語学校(本学の前身)露語科の教官が総力を結集して編んだ記念碑的露和辞典。初版は日本語の活字が右から左へ縦に組んである。



R/III/214(1~8)

Полное собрание сочинений /

Алексей Степанович Хомяков.

т. 1~8 Москва, 1900-1911

「アレクセイ・ステパノヴィチ・ホミャコフ著作集」全8



諸岡文庫/II/85/1~4

『総譯亜細亞言語集支那官話部四卷』再刻版 廣部精譯述
東京 青山堂書房 1892(明治25)年

トーマス・F・ウェード(Thomas Francis Wade. 中国音表記のウェード式ローマ字の創始者)が1867年イギリス公使館の見習生教育用に刊行した問答体のテキスト『語言自選集』を底本に、廣部精(ひろべくわし)が日本人向け編集し、1880(明治13)年に刊行した中国語学習書。日本人の手になる明治以後最初の教科書であり、東京外国語学校のテキストとしても用いられた。



諸岡文庫/I/67/1~2

『字彙十二集首末二卷』(明)梅膺祚撰

上洋江左書林藏板 1868(同治7)年 2帙14冊

中国最初の画引字書。各集は十二支を以て題し、1画から17画まで214部、33,179字を収める。本学所蔵本は清同治年間(1862-74)の刊本。



諸岡文庫/V/28

『合刻管韓二子』葛鼎・丁此聘訂閱

1638(崇禎11)年

法家思想を述べた『管子二四巻』と『韓(非)子二十巻』をあわせた書。明刊本。本学所蔵の漢籍としては最も古いものに属する。

展示資料一覧

ロシア語 - 貴重書, 八杉文庫, 旧分類図書より

特680

Российская грамматика / Михайл Ломоносов
1755 (1757)
「ロシア文法」ミハイル・ロモノーソフ 1755年執筆 1757年刊行

特234

「露和字彙」上・下巻 文部省編 文部省編輯局
1887(明治20)年
文部省より露和辞典編纂の委嘱を受けた東京外国語学校露語科の教官が総力を結集して編んだ記念碑的露和辞典。

八杉文庫/IV/64

Уложение, по которому суд и росправа во всяких делах в российском государстве производится, сочиненное и напечатанное при владении его величества государя царя и великого князя Алексея Михайловича. 2-е изд. С.-Петербург : Имп. АН, 1737
「皇帝アレクセイ・ミハイロヴィチ法典」第2版
サンクト・ペテルブルグ 1737年

R/III/214(1~8)

Полное собрание сочинений /
Алексей Степанович Хомяков. т. 1~8
Москва, 1900-1911
「アレクセイ・ステパノヴィチ・ホミャコフ著作集」全8巻
モスクワ 1900-1911年

R/III/1777

Москвитянин : журнал. / изд. М.
Погодинын 1841(1-12)-1844(1-12)
Москва : Н. Степанова
「モスクヴィチャーニン(モスクワ人)」発行者ミハイル・ボゴージン 1841-1844年 モスクワ Н. ステパノフ

中国語 - 諸岡文庫より

諸岡文庫/II/162

『新編増補較正寅幾熊先生尺牘雙魚九巻』(明)熊宣機編
中野市右衛門刊行 1654(承應3)年 1帙9冊
手紙の書き方の指南書として編まれた本書は、諸岡文庫所蔵の日本発行漢籍の中で最も古いものに属する

諸岡文庫/II/85/1~4

『総譯亞細亞言語集支那官話部四巻』再刻版 廣部精譯述
東京 青山堂書房 1892(明治25)年
日本人の手になる明治以後最初の教科書であり、東京外国語学校のテキストとしても用いられた

諸岡文庫/II/175

『華語跬歩(かごきほ)』5版 御幡雅文編
東京 文求堂 1907(明治40)年
東京外国語学校のテキストとしても用いられた中国語教科書

中国語 - 諸岡文庫より

諸岡文庫/II/169

『官話指南』第1巻 吳啓太・鄭永邦著
東京 楊龍太郎 1882(明治15)年
本書は日本人の手になる最初の中国語会話書であり、東京外国語学校のテキストとしても用いられた。

諸岡文庫/II/202

『改訂官話指南』21版 吳啓太・鄭永邦著 : 金国環改訂
東京 文求堂 1926(大正15)年
改訂者の金国環は清朝の監生(挙人)で東京外国語学校外国人教師。東京外国語学校のテキストとしても使用された。

諸岡文庫/II/123

『自選集平仄編四声聯珠』福島安正編輯 : 紹古英校訂
東京 博文館 1902(明治35)年
陸軍文庫から出版された初版は1886(明治19)年刊。独自の問答体教科書。

諸岡文庫/V/41/1~15

『禮記集說三十巻』(元)陳澧 [撰]
野田庄右衛門開版 1664(寛文4)年 15冊
『礼記』について緒家の説を集めた書。諸岡文庫所蔵の日本出版の漢籍としては最も古いものに属する。

諸岡文庫/V/28

『合刻管韓二子』葛鼎・丁此聘訂閱
1638(崇禎11)年
法家思想を述べた『管子二四巻』と『韓(非)子二十巻』をあわせた書。明刊本。本学所蔵の漢籍としては最も古いものに属する。

諸岡文庫/II/159/1~2

『顧氏音學五書三八巻』(清)顧炎武撰
符山堂藏版 1667(康熙6)年 2帙20冊
清代古音学の開祖といわれる顧炎武(1613-81)の音韻研究の書。本書は『音學五書』の最初の刊本で極めて貴重である。

諸岡文庫/I/67/1~2

『字彙十二集首末二巻』(明)梅膺祚撰
上洋江左書林藏板 1868(同治7)年 2帙14冊
中国最初の画引字書。各集は十二支を以て題し、1画から17画まで214部、33,179字を収める。古くは明万曆年間(1573-1620)の刊本があるが、本学所蔵本は清同治年間(1862-74)の刊本。

諸岡文庫/I/71/1~4

『正字通十二巻首一卷』(明)張自烈・廖文英全輯
清畏堂藏板 1685(康熙24)年 4帙31冊(缺巻六の中下)
『字彙』とともに『康熙字典』の先駆けとなった字書。『字彙』から『康熙字典』へ発展する橋渡的存在となっている。

諸岡文庫/I/63/1~4

『康熙字典四十二巻』
奉旨重刊本 1827(道光7)年 4帙40冊
清の康熙49(1710)年、聖祖康熙帝(清朝第4代皇帝)の命によって張玉書・陳廷敬らが編集した字書。康熙55(1716)年に完成。

選定・解説協力 : 本学外国語学部教授 渡邊雅司, 小林二男